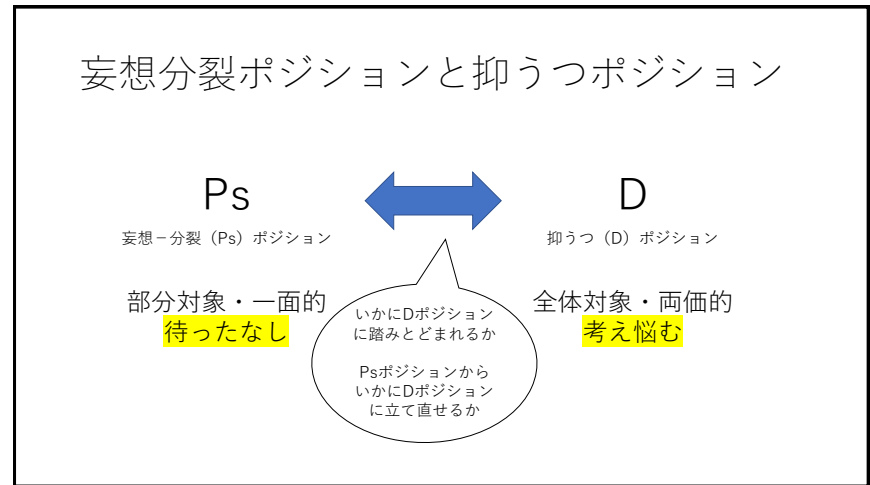


ひろしま災害後のこころの支援勉強会
公開セミナー
 支援者のこころの健康について
 ～人と人とのかかわりから～
 岡田幸彦（発表）・久保康浩・宮川悦子

1



2

大人と子どもの様子（対象関係）は

- 第4波？感染拡大の状況に、自分が感染したくはないし、自分の職場で感染者が出てほしくない、という思いはあるが・・・
- 完璧な対策はないし、ある程度妥協しないと前に進めない、とどこか割り切っているような感じでの様子
- 大人たちは、感染リスクを心配していると身動きがとれないので「ロシアンルーレット」のようなものだと、半ばあきらめ、心配や不安や怒りは切り離してやっている
- 子ども達も、嫌なことを自分から切り離して、よい子をやっている、とても適応的に見える
- 悩んだり考えたりしても、ウィルス相手には無力ということか？

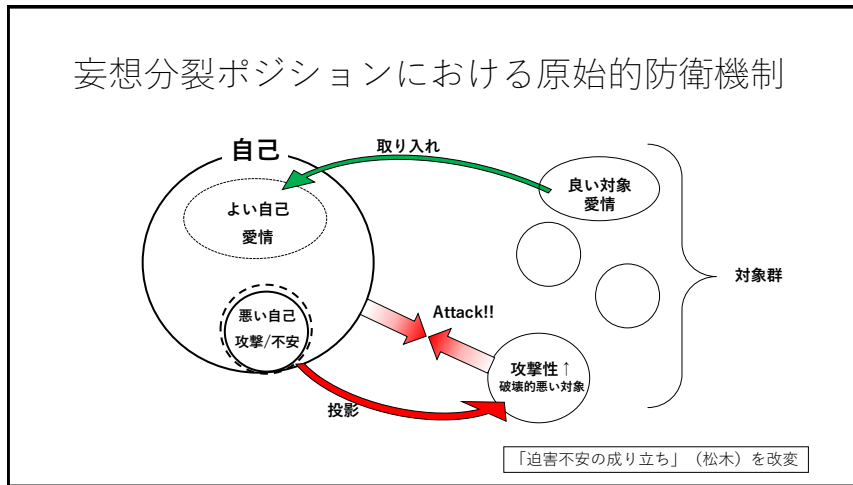
▶ 適応的な（表現しない）子どもたちと「共謀」する形で、不安な面は、あまり見ないようにしてやり過ごしていないだろうか？

3

スプリットिंगが優位な状況で懸念されること

- 新型コロナウイルスなど「どうしても出来ないこと」には、日々の暮らしをやっていくためにも、切り離してやり過ごすことも（今の状況であれば）適応的と言えるかもしれない
- しかし、そのようにして切り離すことが当たり前になると、「声なきSOS」への感度が鈍ったり、「今起きていることの背景を読み取る」ことへの感度が鈍ったりしないだろうか？
 ⇒ 考えられない・悩めない (Psポジションになっている)
- どのような状況であれ、子どもたちの心の成長のためには、こうした感度をもって (Dポジションで) かかわることは大事
- 一方で、支援者も自身の中に生じる感覚や投げ込まれるものを切り離していれば「はね返る形で帰ってくるものと向き合うこと (Psポジション)」に
 ⇒ そうなれば余裕を失い、こころの健康を損なうことにもなる

4



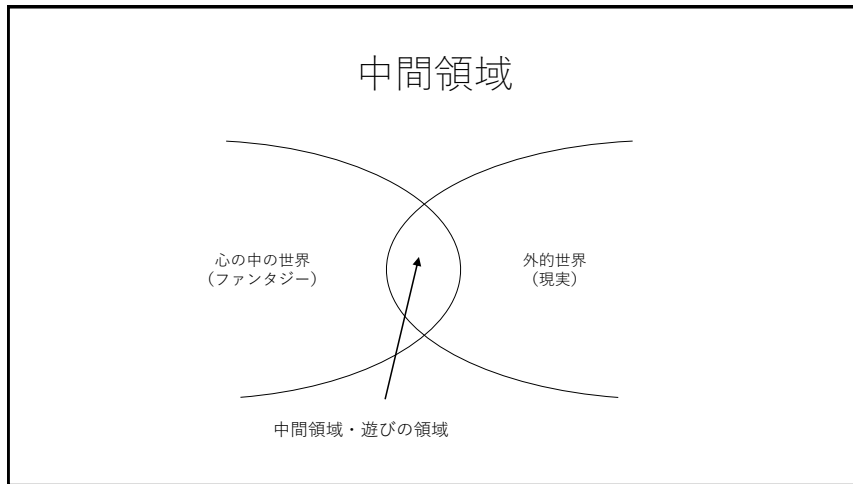
5

今の状況で危惧されること

私たちの心の構えが妄想分裂ポジション優位になりがち

1. 知らず知らずのうちに私たち一人ひとりの「心の健康」が脅かされている可能性
2. 子どもたち心の成長への影響
3. コロナ禍以前から援助を必要としている人たちへの援助への影響

6



7

参考文献

- 『対象関係論を学ぶ』 松木邦裕
- 『図説 臨床精神分析学』 前田重治

8